

サイキン タロウ 様

1991年01月01日生まれ 男性

Oral 検査機関

キットID: 034008100135

検体受領日: 2023年02月01日

Mykinso Oral

検査結果

菌叢タイプ
ふつうタイプ
 リスクは中程度、多くの人があてはまる、一般的
 前回：理想タイプ
 前々回：-



ふつう

多様性
6.70
 検出された菌の種類やバランスは平均的で、良い状態
 前回：6.34
 前々回：-



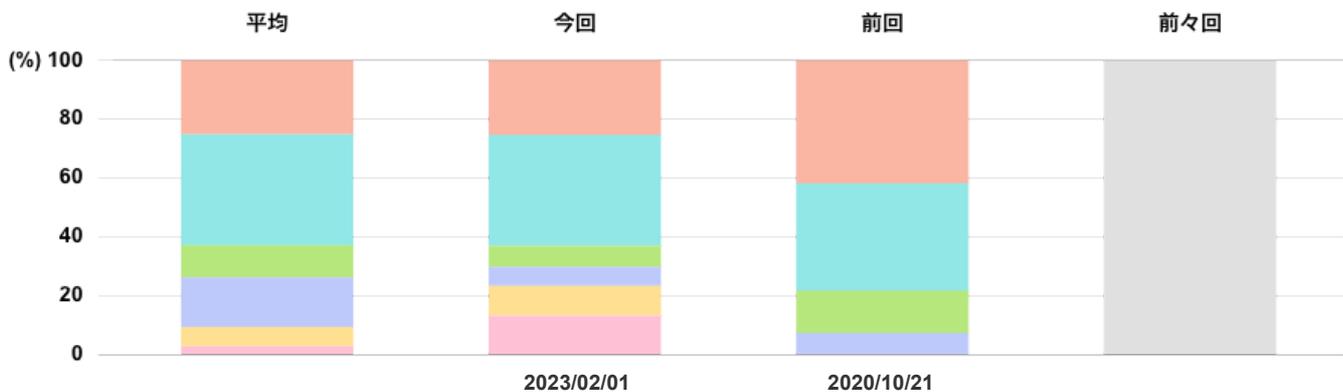
平均的

むし歯菌 リスク
0.07 % 
 前回：0.00 %
 前々回：- 普通

歯周病菌 リスク
3.27 % 
 前回：0.00 %
 前々回：- 高い

口臭関連菌 リスク
5.26 % 
 前回：0.17 %
 前々回：- 低い

口腔内細菌の組成 (門レベル)	平均	今回	前回	前々回
 バクテロイデーテス門	25.15 %	25.33 %	41.85 %	-
 ファーミキューテス門	37.70 %	37.76 %	36.52 %	-
 アクチノバクテリア門	10.99 %	7.16 %	14.40 %	-
 プロテオバクテリア門	16.87 %	6.48 %	7.19 %	-
 フソバクテリア門	6.57 %	10.16 %	0.01 %	-
 シネルギステス門、レンティスファエラ門、その他	2.71 %	13.12 %	0.02 %	-



要注意菌の詳細

 良好
 改善の余地あり
 要改善

カテゴリ	細菌名 略称	細菌名	保有割合			
			保有者の平均 (保有者割合)	今回	前回	前々回
むし歯菌	Sm	S. ミュータンス <i>Streptococcus mutans</i>	0.32% (48.7%)	0.00 %	0.00 %	-
	Ss	S. ソブリナス <i>Streptococcus sobrinus</i>	0.62% (14.5%)	0.07 %	0.00 %	-
歯周病菌	Pg	P. ジンジバリス <i>Porphyromonas gingivalis</i>	1.90% (55.6%)	2.79 %	0.00 %	-
	Tf	T. フォーサイシア <i>Tannerella forsythia</i>	0.28% (64.1%)	0.26 %	0.00 %	-
	Td	T. デンチコーラ <i>Treponema denticola</i>	0.12% (15.4%)	0.22 %	0.00 %	-
歯周病 関連菌	Fn	F. ヌクレアタム <i>Fusobacterium nucleatum</i>	1.13% (94.9%)	0.00 %	0.00 %	-
	Fp	F. ペリオドンティカム <i>Fusobacterium periodonticum</i>	1.8% (89.7%)	0.00 %	0.00 %	-
	Cg	C. グラシリス <i>Campylobacter gracilis</i>	0.24% (86.3%)	0.00 %	0.00 %	-
	Cs	C. ショーエ <i>Campylobacter showae</i>	0.17% (82.9%)	0.00 %	0.00 %	-
	Pi	P. インターメディア <i>Prevotella intermedia</i>	1.21% (35.9%)	0.26 %	0.00 %	-
	Pn	P. ニグレセンス <i>Prevotella nigrescens</i>	0.07% (17.1%)	0.00 %	0.00 %	-

有用菌の詳細

保有割合が0%の場合でも特に問題はありません（少しでも保有している場合は大変良好な結果と考えられます）

カテゴリ	細菌名 略称	細菌名	保有割合			
			保有者の平均 (保有者割合)	今回	前回	前々回
有用菌	-	L. ロイテリ <i>Lactobacillus reuteri</i>	0.81% (6.0%)	0.00 %	0.00 %	-
	-	S. サリバリウス <i>Streptococcus salivarius</i>	0.44% (5.1%)	0.00 %	0.00 %	-

口腔内細菌の詳細

菌叢タイプとは	日本人の口腔内フローラを分類すると、(A)メンテナンスができてい／リスクが低めのタイプ、(B)ふつうのタイプ、(C)歯周病やむし歯のリスクが高めのタイプ、の3タイプに分類することができます。
多様性とは	口腔内フローラ中に様々な機能をもつ菌がバランスよく存在しているかの指標で、主に菌の「種類数」と「均等度」の2つを評価して算出しています。口腔内では、中等度の多様性が健康度が高い傾向があります。
口臭リスクとは	口腔内細菌が原因となる口臭の主な成分として揮発性硫黄化合物（VSC）が知られています。口腔フローラのなかでVSC産生が報告されている菌の合計でリスクを3段階評価しています。

門レベル解説

バクテロイデーテス	口腔内で優勢な菌属「プレボテラ」や、歯周病菌の代表格である「P. ジンジバリス」などが含まれる門です。
ファーミキューテス	有用菌として知られる「L. ロイテリ」「S. サリバリウス」や、むし歯菌の代表格である「S. ミュータンス」「S. ソブリナス」などが含まれる多様性の高い門です。
アクチノバクテリア	腸内の有用菌として有名な「ビフィズス菌」や、口腔内で優勢な菌属「ロチア」が含まれる門です。
プロテオバクテリア	炎症性腸疾患患者の唾液に多く存在することが報告されています。腸へ遷移することで異所性に影響を及ぼし、全身疾患と関連することが知られている菌属「クレブシエラ」が含まれる門です。
フソバクテリア	口腔内で優勢な菌属「フソバクテリア」が属し、歯周病関連菌が多く含まれる門です。

属/種レベル解説

むし歯菌	S. ミュータンス ファーミキューテス門	いわゆるむし歯菌として有名なミュータンス菌（レンサ球菌の一種）です。砂糖から粘着性物質を作り、それがプラークの最大の原因となります。
	S. ソブリナス ファーミキューテス門	ミュータンス菌と並んで、むし歯の原因菌として知られているレンサ球菌の一種。
歯周病菌	P. ジンジバリス バクテロイデーテス門	歯周病関連菌の中でももっとも毒性の強い3つの菌のうちの1つ。付着力が強くバイオフィルムを形成しやすく、また歯の骨を溶かす内毒素を産生します。口臭原因菌(VSC産生)の1つでもあります。
	T. フォーサイシア バクテロイデーテス門	歯周病関連菌の中でももっとも毒性の強い3つの菌のうちの1つで、重症な歯周病を引き起こすとされているほか、近年食道がんとの関連も示唆されています。
	T. デンチコーラ スピロヘータ門	歯周病関連菌の中でももっとも毒性の強い3つの菌のうちの1つで、重症な歯周病を引き起こすとされています。P. ジンジバリスと共生するとさらに毒性が増すという報告があります。
歯周病 関連菌	F. ヌクレアタム フソバクテリア門	プラーク形成時にさまざまな細菌を凝集に関わるとされています。腸内では大腸がんや炎症性腸疾患との関わりも示唆されています。（VSC産生）
	F. ペリオドンティカム フソバクテリア門	F. ヌクレアタムと近縁で、糖尿病患者の歯周炎病変から検出された菌（VSC産生）。
	C. グラシリス プロテオバクテリア門	歯周病に関連するほか、肺炎の原因菌としても知られています。
	C. ショーエ プロテオバクテリア門	カンピロバクター属菌の一種で、歯周病のほか、菌血症の原因菌としても知られています。
	P. インターメディア バクテロイデーテス門	様々な歯周疾患の慢性持続性炎症の原因となることが知られています。特に妊娠性歯肉炎や思春期性歯肉炎で多く検出されるという報告もあります。（VSC産生）
	P. ニグレセンス バクテロイデーテス門	P. インターメディアと近縁で、歯周病との関連が示唆されていますが、P. インターメディアより軽度という報告もあります。
有用菌	L. ロイテリ ファーミキューテス門	プロバイオティクスとして、下痢・便秘などの腹部症状や、むし歯／歯周病菌の発育抑制、乳児の夜泣きに対して効果があるという報告があります。
	S. サリバリウス ファーミキューテス門	口臭を引き起こしにくい人から発見されたとされる乳酸菌で、プロバイオティクスとして利用されています。